

講義科目名称： 障害者福祉論			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 木下 寿恵			

テーマ	障がい者の実態とそれを支える福祉的支援の理念、歴史、制度、実際を学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、日本における障がい者の実態</p> <p>第2回 わが国の法律における「障がい」「障がい者」の定義</p> <p>第3回 「ノーマライゼーション」という考え方と「リハビリテーション」</p> <p>第4回 「自立(自律)」の概念 地域において自立生活をしている障がい者への支援の経験を踏まえて、自立(自律)とはどのようなことなのかを解説します</p> <p>第5回 「ICF(国際生活機能分類)」における「障がい」の捉え方</p> <p>第6回 障がい者福祉施策の変遷 ① (第二次世界大戦後)</p> <p>第7回 障がい者福祉施策の変遷 ② (高度経済成長期)</p> <p>第8回 障がい者福祉施策の変遷 ③ (社会福祉基礎構造改革以降)</p> <p>第9回 障がい者を取り巻く社会情勢の変化 (「障害者総合支援法」の概要など)</p> <p>第10回 「障がい者の権利に関する条約」と人権に関する思想</p> <p>第11回 障がい者福祉の関連施策 ① (教育、バリアフリー法)</p> <p>第12回 障がい者福祉の関連施策 ② (雇用、年金)</p> <p>第13回 障がいを持っている人たちの現状 ① (高次脳機能障がい) 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが体験している大変さの実態について解説します</p> <p>第14回 障がいを持っている人たちの現状 ② (知的障がい) 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが体験している大変さの実態について解説します</p> <p>第15回 障がいを持っている人たちの現状 ③ (筋萎縮性側索硬化症〔ALS〕) 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが体験している大変さの実態について解説します</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 障がいを持っている人たちが社会の中でどのように扱われてきたかを学び、体験してきた大変さの実態を学ぶ。また、障がいを持っている人たちに関する人権思想や制度、援助の実際を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】 障がいを持っている人たちの実態を理解し、障害者福祉に関する基礎的な知識を習得することができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができる</p>

テキスト	<p>テキスト名：『よくわかる障害者福祉 第6版』 ISBN:978-4-623-07644-4 出版社名：ミネルヴァ書房 著者名：小澤 温・編 価格(税抜):2,200 円</p>
参考文献	障がいを持っている人たちに関する文献などは、講義内で適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験：レポート等提出物=80：20 ・学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任)として6年6ヵ月介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。「『障がい』とは何か」ということについて考え、障がいを持っている人たちが切り拓いてきた歴史を知ることによって、いままで見慣れた景色が違ったものに見えてくると思います
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(1時間)

講義科目名称： 経営学総論			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩本 勇			

テーマ	ビデオを見ながら実践的な経営学を楽しく学ぶ
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、経営学とは</p> <p>第2回 日本型経営とその問題</p> <p>第3回 ビデオ (PB 商品とデフレ経済)</p> <p>第4回 流通主導の変化と業態</p> <p>第5回 チェーンオペレーション</p> <p>第6回 ビデオ (コンビニエンスストア)</p> <p>第7回 プロダクトライフサイクル</p> <p>第8回 ドミナント戦略と物流</p> <p>第9回 ビデオ (急成長カクヤス)</p> <p>第10回 ビデオ (SPA ユニクロ)</p> <p>第11回 福祉施設経営事例</p> <p>第12回 病院施設経営事例</p> <p>第13回 保育施設経営事例</p> <p>第14回 民間企業経営事例</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 本授業では、経営学を体系的に学ぶと共に、ビデオによる事例を見ながら、生きた経営学を実例で学ぶことを目的としている。 将来学生の皆さんは、組織のリーダーとして活躍することが期待されている。リーダーとして学ぶべき経営理論を分かりやすく教授し、さらに事例研究通じて問題解決能力を養う。事例研究とは、民間企業はもとより、福祉施設、病院施設、保育施設から代表的な事例を選択し、経営方法の共通点や業界独自の特殊性などを解説する。</p> <p>【授業の到達目標】 本授業は、現在取り組まれている様々な企業戦略の事例を学び、企業家の視点で経営学を論理的且つ実践的に理解し、経営感覚を身に付けることを目標とする。なお、アクティブラーニング (ディスカッション、企画立案など) を積極的に取り入れ、より実践的な経営感覚を身に付けることを目標とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、(知識・技能を理解する力)、(実践的に課題を発見する力)、(課題を解決へと導く力) 及び「学士力」の構成要素の一つである、(多文化・異文化に関する知識の理解)、(論理的思考力)、(問題解決力) を身につけることができる。</p>
テキスト	テキストは使用しません。
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末の筆記試験で評価する (100%) ・期末試験に関するフィードバックは、学内制度 (成績評価問い合わせ制度) を通じて行う

質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答。 ・月曜を除く時間帯に研究室（研究室棟 203 号）にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける（iwamoto@suw.ac.jp） ・オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用して欲しい
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	<p>事例を豊富に用意し、学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。緊張せず、リラックスして、積極的に参加してください。</p> <p>実務経験として、流通政策研究所主任研究員、KPMG ピートマーウィック経営コンサルタントなど 10 年を超える実務経験を有し、中央官庁や地方自治体の各種プロジェクト、一般企業のコンサルティングなど、流通、物流、情報システム構築に多くの研鑽を積んでいる。日本商工会議所販売士検定試験の試験委員、各行政の専門委員、他大学や企業の講師を兼任し、現在は、経営関連学会協議会評議員、日本企業経営学会常任理事、日本産業経済学会常任理事など、学術研究学会において重職に就いている。</p>
準備学習について	<p>普段の生活の中で、経営学の応用事例を見つけましょう。</p> <p>【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと（1 時間）</p> <p>【事後学習】 毎回授業内で復習内容を提示する。授業時間外で振り返りを行うこと（1 時間）</p>

講義科目名称： 相談援助の理論と方法C			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 渡邊 英勝			

テーマ	相談援助実習・演習科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ
授業計画	第1回 相談援助における対象の理解
	第2回 相談援助の対象をどうとらえるか
	第3回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）の基本・過程 社会福祉協議会に努めているときの居宅介護支援事業所において、介護支援専門員（ケアマネジャー）としてのケースマネジメントの実際に関するエピソードをお話しします。
	第4回 ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴 社会福祉協議会に努めているときの居宅介護支援事業所において、介護支援専門員（ケアマネジャー）としてのケースマネジメントに係るアセスメントの実際に関するエピソードをお話しします。また、介護保険認定調査員としての経験、介護認定審査会委員としての経験についても触れたいと思います。
	第5回 ケアプランの作成・実施の特徴 ケースマネジメントの特徴 ソーシャルワークの関係 社会福祉協議会に努めているときの居宅介護支援事業所において、介護支援専門員（ケアマネジャー）としてのケースマネジメントに係るケアプラン作成の実際に関するエピソードをお話しします。
	第6回 グループワークを活用した相談援助① グループを活用した相談援助
	第7回 グループワークを活用した相談援助② 自助グループを活用した相談援助 社会福祉協議会時代に様々な自助グループと接することがありました。その時のエピソードをお話ししたいと思います。
	第8回 相談援助の対象とケースマネジメント（中間テスト）
	第9回 コーディネーションの目的と意義・方法・技術・留意点 地域包括支援センターの管理者として実際に経験した他の専門職との連携・協働のためのコーディネーションの実際について紹介します。
	第10回 ネットワーキングの意義と目的・方法 地域福祉を推進する総合的なネットワークの形成とシステム 社会福祉協議会での地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）としての経験から、ネットワーキングの方法と地域福祉を推進する総合的なネットワークの形成方法の実際について解説します。
	第11回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的・方法と留意点 社会福祉協議会での地域包括支援センター業務、居宅介護支援事業所での業務、地域福祉コーディネーターとしての業務を踏まえ、社会資源の活用・調整・開発の実際についてお話しします。
	第12回 ソーシャルアクションによるシステムづくり

	<p>社会福祉協議会での地域福祉コーディネーターとしてかかわったときのソーシャルアクションの実際についてお話しします。</p> <p>第13回 さまざまな実践モデルとアプローチとその意味 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル</p> <p>地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー</p> <p>障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの基礎モデルについて解説します。</p> <p>第14回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル</p> <p>地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー</p> <p>障害者支援施設での生活支援員等の経験からのジェネラリストソーシャルワークとは何かを解説します。</p> <p>第15回 まとめ</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【概要】相談援助の実際場面において応用できる理論と方法の基本的事項を理解する。特に相談援助における対象者への支援と実践理論との接点を知ることにより、相談援助の概念及び実践理論がいかに現場実践に結びついているのかを体系的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】ソーシャルワーカーとしての相談援助に関する知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 ISBN：978-4-8058-5104-3 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,600円</p>
<p>参考文献</p>	<p>講義中適宜紹介する。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】①毎回のリアクションペーパー（小テスト含む）（50%） ②課題レポート（50%）</p> <p>【フィードバックの方法】リアクションペーパーを回収した次の授業内で総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>①授業内で適宜、質問相談に応じる ②リアクションペーパーに積極的に記入して欲しい ③オフィスアワーを積極的に活用して欲しい</p>
<p>履修条件</p>	<p>なし</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>積極的な質問を歓迎します。</p> <p>障害者支援施設での生活支援員、社会福祉協議会での、ボランティアコーディネーター、地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、総合相談員、事務局長としての組織マネジメント等授業の中でエピソードや実務的な内容についても触れたいと思います。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに予習を行っておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】毎回授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（1時間）</p>

講義科目名称： 地域福祉の理論と方法A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 青山 登志夫			

テーマ	地域社会のニーズ、地域福祉を形成した思想・理念、地域福祉を推進する政策・制度、要支援者の地域自立生活を支援する実践の現状の理解をする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の目的と進め方）、地域福祉推進の政策動向</p> <p>第2回 地域福祉の発展過程</p> <p>第3回 行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉</p> <p>第4回 新しい生活課題に対応する地域福祉</p> <p>第5回 福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成</p> <p>第6回 地域福祉理論の発展と広がり</p> <p>第7回 地域自立生活支援と地域福祉の理念</p> <p>第8回 地域のとらえ方と福祉圏域</p> <p>第9回 地域福祉の推進と福祉教育の歩み</p> <p>第10回 福祉教育の概念と内容</p> <p>第11回 地方分権と地域福祉計画</p> <p>第12回 地域福祉推進と社会福祉協議会の歩みと法的位置づけ</p> <p>第13回 地域福祉推進と社会福祉協議会の役割と実際</p> <p>第14回 社会福祉法人の役割と実際</p> <p>第15回 特定非営利活動法人の役割とボランティア活動</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>地域福祉は、2000年の社会福祉法制定で「地域福祉の推進」が法律の中に位置づけられ、社会福祉制度の中では比較的新しい研究分野である。さらに、2017年には社会福祉法改正において地域共生社会の構築が喫緊の課題となっており、社会福祉分野の学習において基盤となる考え方である。</p> <p>【授業概要】地域社会を基盤にした「共生社会の構築」「主体的な住民参加」など地域福祉の理念・考え方をふまえ、要支援者の自立地域生活を支える福祉コミュニティ形成のあり方を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】地域社会を基盤とした生活課題の把握及び解決に取り組むソーシャルワークの知識・支援スキルの習得を目的とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び地域を視野に貢献する力をつけることができる。さらに、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力及びチームワーク・リーダーシップを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座9巻「地域福祉の理論と方法—地域福祉論」第3版 ISBN：978-4-8058-5105-0 出版社：中央法規出版 価格（税抜）：2,600円</p>
参考文献	<p>1) 「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告」 厚生労働省 2008年3月</p> <p>2) 「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会報告」 厚生労働省 2017年9月</p> <p>3) 「コミュニティソーシャルワークの新たな展開 理論と先進事例」 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所 2019年6月</p> <p>4) この授業において、法律・制度に関わる事項が多くあり、「社会福祉六法」の必携を推奨する。</p>

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	①学期末のレポート(60%)及び小テスト(4回・各10%)で成績評価する。 ②小テストは、提出後に課題として相応しいレポートを紹介する。
質問・相談の受付方法	水曜日の午後1時～2時を利用してください。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	地域福祉の推進の中核組織である東京都社会福祉協議会の職員として、東京都内での地区社会福祉協議会活動・小地域福祉活動・ボランティア活動のモデル的・先駆的な事業の企画立案と運営、2000年度の法定化された苦情解決制度・地域福祉権利擁護事業などの福祉サービス利用者の権利擁護事業の立ち上げと定着化、阪神淡路大震災や東日本大震災などの大規模災害の被災地支援等の地域福祉実践などに30年間にわたり従事した。その体験をふまえた実践研究を通じた授業を行う。 社会福祉士等の福祉専門職は、社会福祉システムのメインストリームである「地域福祉」の理論と方法を習得することは必須であり、地域福祉を創造する一員としての学びをしてほしい。
準備学習について	【事前学習】授業計画によって事前に提示されているテーマについて、次回授業の予習内容を提示するので、教科書、参考文献や新聞記事等を調べ、わからない用語をチェックしておくなど事前学習を行うこと。(90分) 【事後学習】毎回の授業での「出席票振り返り欄」に授業内容を振り返りを行うこと。また、授業時間外で授業該当テーマを教科書と授業時配布レジュメをもとに振り返りを行うこと。さらに、授業で取り上げた地域福祉実践について、自らが暮らす地域社会で展開されているかどうかを把握すること。(90分)

講義科目名称： 福祉サービスの組織と経営			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 福田 幸夫			

テーマ	福祉サービスの特性を理解し、福祉サービスを提供している事業者（主に非営利組織）の経営を考える
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業日程・授業内容等 ・ 私たちの暮らしと社会福祉のあり方 ・ 授業計画の説明
	第2回 福祉サービス提供事業者の位置と組織形態の多様性 ・ 福祉サービスとは ・ 福祉サービスの事業主体
	第3回 社会福祉法人（福祉施設・社会福祉協議会）の現状と経営課題 ・ 社会福祉法人制度の概要 ・ 社会福祉法人の設立要件等 〔現場エピソード…同族経営の弊害〕
	第4回 特定非営利活動法人・その他のサービス提供組織の現状と経営課題 ・ 特定非営利活動法人の概要 ・ 特定非営利活動法人の設立要件等
	第5回 福祉サービス提供組織と経営理論①（組織戦略の基礎理論） ・ 福祉サービスの経営戦略 ・ 福祉サービスの事業計画
	第6回 福祉サービス提供組織と経営理論②（組織構造の基礎理論） ・ 福祉サービスの組織構造 ・ 福祉サービスの組織形態 〔現場エピソード…福祉サービス提供の理念の実態〕
	第7回 福祉サービス提供組織の経営理論③（集団力学の基礎理論） ・ 福祉サービスの運営管理方法 ・ 集団とモチベーション
	第8回 福祉サービスと経営管理①（サービス管理） ・ 福祉サービスの特性 ・ 福祉サービスとマネジメント
	第9回 福祉サービスと経営管理②（品質管理） ・ 福祉サービスの質の評価 ・ 自己評価と第三者評価等
	第10回 福祉サービスと経営管理③（リスク管理） ・ 福祉サービスの苦情対応 ・ 福祉サービスにおけるリスクマネジメント 〔現場エピソード…福祉サービスと人権〕
	第11回 福祉組織における人事・労務管理 ・ 福祉サービスにおける人材の確保と採用

	<p>・ 福祉サービスにおける労務管理と労使関係管理</p> <p>第 12 回 福祉組織における人材確保・育成</p> <p>・ 福祉サービスにおける人材育成の必要性</p> <p>・ 経営管理と人材育成の方法</p> <p>第 13 回 福祉組織における財務・会計管理</p> <p>・ 社会福祉法人の経営と財務管理</p> <p>・ 社会福祉法人の財務規律・財務諸表</p> <p>[現場エピソード…市場原理と福祉経営]</p> <p>第 14 回 福祉組織における情報管理と戦略的広報</p> <p>・ 福祉サービスに必要な情報管理</p> <p>・ サービス情報の公表制度等</p> <p>第 15 回 まとめ 社会福祉事業者と経営</p> <p>・ 福祉サービス運営管理の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】</p> <p>福祉サービスの中核を担うソーシャルワーカーとして、福祉サービスを提供する組織・事業体等の非営利組織の経営理念・経営戦略、経営管理について基礎的な知識を修得する。具体的には、</p> <p>①福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人など）について理解する。</p> <p>②福祉サービスの特性をふまえ、提供組織構造と経営に係る基礎理論について理解する。</p> <p>③福祉サービスを提供する組織の経営管理及び組織運営（チームマネジメント）について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ソーシャルワーカーとして活躍できる人材を育成することを視野に、福祉サービスの運営管理を理解し、説明できる。また、社会福祉士国家試験の受験科目として合格するための必要な基礎的な知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>「福祉力」の構成要素では、「知識・知識を理解する力」、「主体的に学習する力」、「地域を視野に貢献する力」を身につけ、「学士力」では、「論理的思考力」、「問題解決力」「市民としての社会的責任」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 11「福祉サービスの組織と経営」第 5 版</p> <p>ISBN：978-4-8058-5431-0</p> <p>出版社：中央法規</p> <p>著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2, 200円</p>
参考文献	<p>①「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」報告 厚生労働省 2014年7月</p> <p>②「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」答申 社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 2018年3月</p> <p>その他、講義中適宜紹介します。</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>①受講姿勢 25%</p> <p>②3回程度の小テスト 25%</p> <p>小テストについては、提出日の次回授業内で総評・解説をおこなう。また、学期末試験に関するフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じておこなう。</p> <p>③期末レポート 50%</p> <p>学期末試験に関するフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じておこなう。</p>
質問・相談の受付方法	授業中、あるいは授業終了後、随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。

特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	社会福祉士等の福祉専門職は、自らの職場が働きやすい環境を創るための努力が求められ、組織の安定性と継続性を図る『経営』について学んでほしい。 社会福祉士として、社会福祉法人の理事、評議員の経験があります。授業中にいろいろな福祉現場のエピソードを紹介したいと思います。
準備学習について	①毎回授業内で予習内容を指示するので、予習を行うこと（2時間） ②毎回授業で確認を行うので(小テスト等)、授業時間外で復習すること（2時間） 参考文献に記載した①、②の報告書・答申を入手（厚生労働省ホームページに掲載）し、精読しておくこと(授業中に指示する)。

講義科目名称： 高齢者福祉サービス			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 檜木 博之			

テーマ	高齢者の理解を深め、高齢者の福祉・介護に係る法制度の概要について理解する。
授業計画	第1回 オリエンテーション 科目の位置づけを理解する。
	第2回 高齢者の特性と生活実態 高齢者の特性と生活実態を明らかにする。
	第3回 少子高齢社会と高齢者を取り巻く問題 少子高齢社会と高齢者を取り巻く問題にどのようなものがあるか理解する。
	第4回 高齢者を取り巻く諸問題 高齢者を取り巻く問題に対する対策にどのようなものがあるか理解する。
	第5回 高齢者に対する福祉と老人福祉法 老人福祉法の基本理念と高齢者福祉サービスを理解する。
	第6回 高齢者に対する医療と高齢者の医療の確保に関する法律 後期高齢者医療制度を理解する。 高齢者医療の実践の変化について、実務経験に基づいて説明していきます。
	第7回 介護保険制度の基本的枠組み① 介護保険制度創設の背景と目的 介護保険制度創設の背景と目的を理解する。
	第8回 介護保険制度の基本的枠組み② 保険財政・保険者、被保険者・要介護認定 介護保険制度の基本的枠組みを理解する。
	第9回 介護保険制度の仕組み 介護保険制度の仕組み（介護保険の利用の流れ）を理解する。
	第10回 介護保険サービスの体系 介護保険サービスの種類と内容を理解する。
	第11回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際 介護保険法における組織・団体に何があるか、その役割は何かを理解する。
	第12回 地域包括支援センターの役割と実際 地域包括ケアシステムを含む 介護保険法における組織・団体の役割を理解する。
	第13回 介護保険と介護報酬 介護保険を利用した際のお金の流れを理解する。
	第14回 高齢者の虐待対策と高齢者虐待防止法 高齢者虐待の定義と虐待を防ぐ方法を理解する。
	第15回 高齢者の生活環境と新バリアフリー法・高齢者住まい法 バリアフリー新法と高齢者住まい法の内容を理解する。

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】 高齢者の生活実態と社会情勢といった高齢者がおかれている現状を把握するとともに、高齢者の福祉・介護に係る他の法制度の概要について理解する。</p> <p>【授業の到達目標】 高齢者の生活実態や置かれている現状を学ぶ。また、高齢者福祉に係る法律制度、特に介護保険制度の理解、および介護保険制度を取り巻く組織や人々の役割を理解できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、地域を視野に貢献する力及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解、市民としての社会的責任を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 第6版 ISBN：978-4-8058-5807-3 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税込）：2,808円</p>
<p>参考文献</p>	<p>授業中に適宜紹介する。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】 学期末筆記試験（50%）、小レポート提出2回（30%）、リアクションペーパー内の課題・授業の要点の内容（20%）を総合的に評価する。なお、出席回数2/3以上の出席がなければ成績評価の対象としない。</p> <p>【フィードバック方法】 授業内で毎回提出するリアクションペーパーは、次の回の授業で返却する。小レポートは回収後授業内でコメントをつけて返却する。また、学期末試験に関するフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じておこなう。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業終了後やオフィスアワーで質問・相談を受けつける。また、授業時に配布するリアクションペーパーに疑問点・質問を記載する欄があるので積極的に記入して欲しい。</p>
<p>履修条件</p>	<p>特に設けない。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>日頃から高齢者福祉に関連する新聞記事等を意識して目を通すようにしてください。また、授業で使用するリアクションペーパーを積極的に活用して欲しいです。 療養病床のある病院で医療ソーシャルワーカーをしていました。講義では高齢者医療の変遷と実際について伝えていきます。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>予習は、授業前2時間以上とする。授業ごとに教科書の該当ページを指定するので指定した箇所を読み、最近の社会の動向との関連性を考えておく。復習は、授業後2時間以上とする。授業で学んだことを振り返り、まとめておくこと。</p>

講義科目名称： 児童・家庭福祉サービス			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 相原 真人			

テーマ	児童家庭福祉の基本的枠組みと個別具体的なサービスの内容を理解していきます。
授業計画	<p>第1回 導入</p> <p>シラバスを通して、この授業の枠組みや約束事を確認します。さらに、実際に起こった児童虐待事例を通して子どもたちが置かれた状況を知るとともに、児童・家庭福祉全体の任務を概観することにより、授業へ導入します。</p>
	<p>第2回 現代社会と子ども家庭</p> <p>少子高齢化、児童虐待の増加、一人親家庭の状況、保育所待機児童、いじめと非行、子どもの貧困など、現代の子どもと家庭の福祉ニーズを理解します。</p>
	<p>第3回 子ども家庭福祉とは何か</p> <p>児童の定義、児童福祉の理念、子どもの権利保障、日本と欧米の児童福祉の歴史、等を理解します。</p>
	<p>第4回 子ども家庭福祉に関わる法制度①</p> <p>子育て支援施策の概要を把握するとともに、児童福祉六法など児童・家庭福祉に関係する法律体系の全体像や、児童福祉法を初めとする児童福祉六法の概要を知り、児童相談所など福祉の実施機関について役割や機能（働き）を理解します。</p>
	<p>第5回 子ども家庭福祉に関わる法制度②</p> <p>児童福祉施設の体系を知って全体像を把握するとともに、児童養護施設を初め主要な児童福祉施設の役割・機能を理解するとともに、児童福祉司、家庭支援専門相談員（ファミリーソーシャルワーカー）など児童福祉に関係する専門職種の役割・機能・資格要件等を理解します。さらに、児童家庭福祉の費用負担や児童福祉施設の運営についても学んでいきます。</p>
	<p>第6回 母子保健</p> <p>母子保健法を中心に、母子保健施策の具体的な内容について理解します。</p>
	<p>第7回 障害等のある子どもと家族への支援</p> <p>児童福祉法を中心に、障害児等や家族への具体的な支援内容を理解するとともに、障害児施設で働く専門職についても学んでいきます。なお、障害があると医師が診断した子どもの実情について、教員が知っている事例の一部を紹介する予定です。</p>
	<p>第8回 児童健全育成</p> <p>児童福祉法を中心に、児童館や放課後児童健全育成事業（学童保育）など児童健全育成施策の具体的な内容を理解します。</p>
	<p>第9回 保育</p> <p>児童福祉法を中心に、認可保育所や認定こども園など保育施策の具体的な内容を理解するとともに、保育士の役割・機能についても学んでいきます。</p>
	<p>第10回 地域子育て支援</p>

	<p>児童福祉法や子ども・子育て支援法、次世代育成支援対策推進法を中心に、地域における子育て支援の具体的な内容を理解します。</p> <p>第 11 回 ひとり親家庭等への福祉 母子及び父子並びに寡婦福祉法、及び、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律を中心に、ひとり親家庭やDV（ドメスティックバイオレンス）への具体的な支援の内容を理解します。なお、教員が実務経験の中で把握した一人親家庭への支援の実際について紹介する予定です。</p> <p>第 12 回 児童の社会的養護 児童福祉法を中心に、児童養護施設や里親制度など保護が必要な子どもへの具体的な支援の内容を理解するとともに、要保護児童対策地域協議会や児童家庭支援センターなど地域において子どもと家庭を支援する仕組みについても学んでいきます。なお、教員が関わっている里親支援機関（フォスタリング機関）の実情等について紹介する予定です。</p> <p>第 13 回 児童虐待への対応 児童虐待の防止等に関する法律を中心に、児童虐待の定義や発生要因、子どもへの影響などを知るとともに、虐待を受けた子どもへの具体的な支援の内容を理解します。なお、児童相談所における児童虐待への介入的対応の実際について、教員の実体験を基に紹介する予定です。</p> <p>第 14 回 非行児童・心理支援が必要な子どもの福祉 少年法と児童福祉法を中心に、非行児童や心理治療が必要な子どもへの具体的な支援の内容を理解するとともに、家庭裁判所や児童自立支援施設、児童心理治療施設の役割・機能についても学んでいきます。なお、教員が知っている非行事例の実際について紹介する予定です。</p> <p>第 15 回 子どもと家庭への援助活動 児童と家庭に対する相談援助（ソーシャルワーク）の内容について理解するとともに、児童養護施設における職員の任務など施設ケアの内容についても学んでいきます。</p> <p>第 16 回 期末試験 今まで実施してきた小テストを主に活用し、授業全体の理解度を測定します。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要と到達目標】 児童家庭福祉とは、発達途上の存在であるため自分自身の権利擁護を大人の手任せに頼るを得ない子どもを守り、その権利擁護を担うべき家庭を支援する取組みの総体ですが、具体的には制度（社会の仕組み）として現れます。この授業は、そのような児童家庭福祉の内容、特に法律を基盤にした制度の仕組みを理解し、望ましいあり方を考えられるようにするとともに、社会福祉士の国家試験にも対応できる力量を養うことを目指します。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「主体的に学習する力」、および「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができます。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第 7 版 ISBN：978-4-8058-5809-7 出版社：中央法規出版 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200 円</p>

参考文献	必要に応じて、その都度紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 予習シートの記述内容 (20%) + 小テストの成績 (30%) + 期末試験の成績 (50%) で評価しますが、予習シートの平均点数の 20% と小テストの平均点数の 30% および期末試験点数の 50% の合計点が 60 点に達しない場合、および合計点が 60 点に達していても期末試験単独の成績が 60 点に達していないときは、単位を認定しません。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】 小テストは採点のうえ次回授業の冒頭で返却し、答え合わせを行います。また、小テストには質問欄を設けてありますので、質問を記入していただいた場合は小テスト返却に合わせて回答します。なお、答え合わせを行った小テストは期末試験の準備をする際に役立ちますので、なくさないよう大切に保管しておいて下さい。</p>
質問・相談の受付方法	基本的にはオフィスアワー等を活用し研究室(研究棟 2 階 202 号室)で受け付けます。必要に応じて授業終了後に教室で質問して頂いても構いませんが、時間が限られるため十分な対応ができない場合もありますので、予め承知しておいてください。なお、小テストの質問欄を活用することもできます。
履修条件	特に設けませんが、社会福祉士国家試験受験資格を得るための必須科目であり、相談援助実習(実習指導を含む)の前提科目にもなっていますので、その点も考慮して履修登録してください。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	<p>1. 出欠席は、毎回提出してもらう予習シート、および、毎回実施する小テストにより確認します。</p> <p>2. 小テストは授業終了時間の 10 分ほど前に実施しますが、筆記用具以外は全てカバン等にしまってください。その際、隣の人とは並んで座らず、必ず一人分以上の間を空けて座ってください。また、問題・解答用紙は授業当日の出席人数を把握した上で小テストの実施時間に配布しますので、受講生の皆さんも小テストのスムーズな実施に協力してください。なお、小テストといえども試験であることに変わりはありませんので、不正な行為や疑わしい行為については厳正に対処します。</p> <p>3. 担当教員は、都道府県の公務員(福祉職)として合計 18 年間にわたりソーシャルワーク業務を行ってきました(そのうち 10 年間は児童相談所)ので、必要に応じて、授業の中で、実務体験に基づく現場の実際などを紹介していきます。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 次回の授業で取り上げる内容に対応するテキストの範囲を事前に読み、前回の授業で配布された予習シートにテキストの内容に沿った必要事項を記入(以上で概ね 1 時間)の上、その回の授業が始まる前までに提出箱へ投函していただきます。なお、毎回の予習範囲や予習シートの記入方法など詳細については第一回目の授業で説明しますので、必ず出席してください。</p> <p>【事後学習】 次回の授業冒頭で小テストの答え合わせを実施しますので、その回の授業で配布されたプリントの内容を復習(以上で概ね 30 分)し答え合わせに備えるとともに、小テストが返却された後はプリントの内容と照らし合わせその選択肢がなぜ正しくその選択肢がなぜ正しくないのかを確認(以上で概ね 30 分)しておいてください。</p>

講義科目名称： 心理演習B			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 梶木てる子、森平准次			

テーマ	心理学的支援の理論と方法について演習をとおして学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、認知行動療法の手法1・リラクゼーション技法（呼吸法、自律訓練法等）</p> <p>第2回 認知行動療法の手法2・エクスポージャー、系統的脱感作法</p> <p>第3回 認知行動療法の手法3・アサーションとSST</p> <p>第4回 認知行動療法の手法4・問題解決技法、行動活性化</p> <p>第5回 認知行動療法の手法5・認知療法</p> <p>第6回 認知行動療法の手法6・第3世代の認知行動療法</p> <p>第7回 体験療法の手法・スキーマ療法など</p> <p>第8回 森田療法、内観療法、動作法の手法</p> <p>第9回 芸術療法（表現療法）の手法1・コラージュ療法</p> <p>第10回 芸術療法（表現療法）の手法2・風景構成法、箱庭療法</p> <p>第11回 芸術療法（表現療法）の手法3・集団療法としての芸術療法、遊戯療法</p> <p>第12回 家族療法、ブリーフセラピー、ナラティブセラピーの手法1・システムミック・アプローチによる問題のアセスメントと理解</p> <p>第13回 家族療法、ブリーフセラピー、ナラティブセラピーの手法2・リフレーミング、問題の外在化などの介入手法・ドミナント・ストーリーとオルタナティブ・ストーリー</p> <p>第14回 災害支援、被害者支援の手法・PFAのあり方、DPATの紹介・トラウマケア</p> <p>第15回 心理教育の手法・個別面接における心理教育・家族会、当事者の会・地域における啓発活動、自殺予防活動など</p> <p>※履修人数等により、実施の順序や内容はある程度変更する場合があります。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 個別的な問題のアセスメントや心理支援を実践する上で求められる技能の基本として、心理面接の各種の介入手法や地域支援などについてロールプレイや事例検討を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】 心理支援としての心理面接や地域支援の手法として、各種の心理療法理論の介入法や基本的技能について説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>授業各回のミニレポート（20%）</p> <p>単元ごとのレポート課題3本（80%）</p> <p>成績評価のフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	公認心理師受験資格に対応した科目であり、原則として将来的に公認心理師受験の可能性のある学生以外の履修を認めない。 1、2年次に担当された公認心理師指定科目の単位を原則すべて修していること。 GPAによる一定の成績基準を設け、2年次後期担当科目の「心理演習A」の授業終了後、面談により選抜を行う。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	臨床現場で心理専門職として従事した経験のある教員が担当し、実践的な授業を行います。特別な事情のない限り遅刻や欠席のないように心がけてください。また、受講者数や講義の進行具合によって、クラス数やシラバスに変更がある場合があります。
準備学習について	授業ごとに60分以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

講義科目名称： 公認心理師の職責			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 森平 准次			

テーマ	公認心理師の職務の遂行にあたり、その役割と倫理、現場によって求められる職務、連携、支援の質の向上といった具体的な課題について概観する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・公認心理師とは 公認心理師法について概説し、公認心理師の業務から、心理的アセスメントや心理学的支援、関係者への支援と連携、心の健康教育について振りかえる</p> <p>第2回 公認心理師の役割の理解と法的義務 公認心理師の職務遂行における公認心理師法の留意点（主治医の指示、名称独占、信用失墜の禁止、資質向上の責務、等）について概説する</p> <p>第3回 公認心理師の倫理 守秘義務等、公認心理師として職務に当たるうえで必要な倫理について検討する</p> <p>第4回 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 心理学的支援を必要とする者の安全の確保や自己決定権について概説する</p> <p>第5回 情報の適切な取扱い 守秘義務と連携・情報共有について検討する</p> <p>第6回 保健医療分野の業務</p> <p>第7回 福祉分野の業務</p> <p>第8回 教育分野の業務</p> <p>第9回 司法分野の業務</p> <p>第10回 産業分野の業務</p> <p>第11回 多職種連携、地域連携、チームとしての活動 他職種連携とチームアプローチについて概説する</p> <p>第12回 自己課題発見・解決能力 公認心理師として業務を遂行する上で、課題発見とその解決について概説する</p> <p>第13回 生涯学習と自己研鑽 公認心理師の養成カリキュラムと国家試験、生涯学習と自己研鑽について概観する</p> <p>第14回 今後の課題 公認心理師の職務遂行にあたっての留意点について概観する</p> <p>第15回 まとめと振り返り 公認心理師の職責について振りかえる</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 国家資格である公認心理師の役割や倫理、責任といった実務に関わる課題について概説する。講義形式で行うが、演習やディスカッションを取り入れることがある。</p> <p>【到達目標】 公認心理師の役割、倫理、具体的な業務とその責任について基本的な事項を説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」「生涯学習力」を身につけることができる。</p>

テキスト	指定しない。
参考文献	野島一彦編 (2018) 公認心理師の基礎と実践 遠見書房 ISBN-13: 978-4866160511
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	毎回の授業におけるコミュニケーション・カードのコメント(30%)と学期末試験(70%)を総合して評価する。
質問・相談の受付方法	オフィスアワーにて受け付ける。
履修条件	なし。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザインカレッジ生【可】
メッセージ	2018年度入学生から、公認心理師対応科目(必修)です。 公認心理師資格取得後も含め、現場に適した心理支援とは何か、考えながら学習を深めてください。また、授業でディスカッションを行う場合は、積極的にコメントし、受講生同士の学びを深めてください。 担当教員の心理専門職として活動した体験等を反映させたいと考えます。
準備学習について	【事前学修】各回のテーマに関して下調べをする(60分程度)。 【事後学修】授業資料とノートをまとめ、実際に公認心理師として活動する際にどのような問題が起こるかについて想定し、その解決策を検討する(60分程度)

講義科目名称： 健康・医療心理学			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 森平 准次			

テーマ	健康心理学ならびに医療心理学について学ぶ
授業計画	第1回 オリエンテーション、心の健康に関わる現場と医療について 授業の進め方を確認し、健康と医療について概説する。
	第2回 ストレスの心理・生理と心身の疾病 セリエの理論を基に、ストレスについて概説する
	第3回 心の健康とストレスマネジメント ラザルスの理論を基に、ストレスとそのマネジメントについて概説する
	第4回 医療現場における活動の基本、保健・医療における法律・制度・倫理 医療現場における法律や制度、倫理について紹介し、その活動の特徴を概説する。
	第5回 精神科（小児・思春期）における心理社会的課題と心理支援 知的障害や発達障害について概説する。
	第6回 精神科（成人期）における心理社会的課題と心理支援 統合失調症や気分障害について概説する。
	第7回 精神科（高齢期）における心理社会的課題と心理支援 高齢者の心理の特徴と認知症について概説する。
	第8回 医療観察法 医療観察法とその適用される状態について概説する。
	第9回 心療内科・内科 心身症とその治療について概説し、自律訓練法を紹介する。
	第10回 小児科・母子保健領域 周産期や出生前診断、遺伝カウンセリングについて概説する。
	第11回 産業保健領域、地域保健活動と自殺予防 自助グループと嗜癖の問題、自死やその予防について概説する。
	第12回 神経科・リハビリテーション領域 てんかん、パーキンソン病、高次精神機能障害、リハビリテーションについて概説する。
	第13回 災害時などにおける課題と必要な心理支援 災害時の心理状況やその心理学的支援について概説する。
	第14回 さまざまな医療現場（高齢者医療、先端医療等）とコンサルテーション ターミナルケア、看取りやグリーフワークについて概説する
	第15回 まとめ

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 精神疾患を含め心の健康問題や、医療保健分野における心理支援に関する知識について概説する。</p> <p>【到達目標】 心の健康問題や医療保健分野の心理支援に関する基本的な事項を説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与との関連】 この科目の学修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	<p>テキスト名：公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学 ISBN：978-4-263-26577-2 編者：宮脇稔、大野太郎、藤本豊、松野俊夫 出版社：医歯薬出版</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 毎回の授業で記述するコミュニケーション・カードの内容(30%)と試験(70%)を総合して評価する。</p> <p>【フィードバック方法】 成績評価のフィードバックについては、学内制度を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	オフィスアワーの時間帯にて受けつける。
履修条件	なし。
特別学生の履修可否	<p>科目等聴講生【可】 聴 講 生 【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>2018年入学者の場合、公認心理師養成科目になります。</p> <p>自死、看取り、災害など、生死にかかわるテーマも扱いますので、履修希望者は注意してください。</p> <p>心理職として医療機関で勤務した経験などを授業のなかで反映させたいと考えます。</p>
準備学習について	授業に先立ち、授業計画で示されている授業内容について下調べをしてください(60分程度)。授業後は、資料とノートをまとめ、知識の整理と定着を図ってください(60分程度)。

講義科目名称： 精神保健の課題と支援A			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 長坂 和則			

テーマ	人と環境の精神保健として必要なメンタルヘルスの基礎的知識を理解し、それぞれのライフステージにおけるこころの問題や疾患を理解し知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 精神保健（メンタルヘルス）について基本的な知識 こころとは…</p> <p>【事前学習】テキストを読み心の健康とはどのような意味を持つのか考えること（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだ「メンタルヘルス」について復習して下さい（1時間）</p>
	<p>第2回 精神衛生と精神保健の違い 精神保健の概念について</p> <p>【事前学習】テキストを読み「精神保健とは何か」を予め理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだ「さまざまな精神保健の問題」について復習して下さい（1時間）</p>
	<p>第3回 精神障害の分類～精神の障害とは何か～ 精神障害の診断とは</p> <p>【事前学習】テキストから精神障害の診断について予め理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】さまざまな治療法や精神疾患について復習して下さい（1時間）</p>
	<p>第4回 こころの健康、こころの疾患、こころの障害</p> <p>【事前学習】テキストから統合失調症について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだこころの病について復習して下さい（1時間）</p>
	<p>第5回 当事者からのメッセージ（統合失調症からの回復とは）</p> <p>【事前学習】テキストから統合失調症の症状や生活のしづらさについて理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】統合失調症から回復とその課題について復習して下さい（1時間）</p>
	<p>第6回 ライフサイクルと精神保健 乳幼児のアセスメント・母子の精神保健</p> <p>【事前学習】テキストから母子関係の精神保健について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】母子関係で及ぼすメンタルヘルスについて復習して下さい（1時間）</p>
	<p>第7回 ライフサイクルと精神保健① 思春期における精神保健</p> <p>【事前学習】テキストから思春期に特徴を示す精神保健について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】思春期特有の問題について復習して下さい（1時間）</p>
	<p>第8回 ライフサイクルと精神保健② 青年期における精神保健</p> <p>【事前学習】テキストから青年期のメンタルヘルス問題について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】青年期におけるストレスやメンタルヘルスについて復習して下さい（1時間）</p>

	<p>第9回 ライフサイクルと精神保健③ 成人期における精神保健 【事前学習】 テキストから成人期のメンタルヘルス問題について理解しておくこと (1時間) 【事後学習】 講義で学んだ成人期特有の諸問題について復習して下さい (1時間)</p> <p>第10回 ライフサイクルと精神保健④ 老年期における精神保健 【事前学習】 テキストから老年期のメンタルヘルス問題について理解しておくこと (1時間) 【事後学習】 講義で学んだ老年期特有の諸問題について復習して下さい (1時間)</p> <p>第11回 ライフサイクルと精神保健⑤ 人生の完結と精神保健 【事前学習】 テキストから人生の完結について理解しておくこと (1時間) 【事後学習】 講義で学んだ人生の完結における問題を復習して下さい (1時間)</p> <p>第12回 精神保健の視点からみた家族の課題 【事前学習】 テキストから家族の課題について理解しておくこと (1時間) 【事後学習】 家族のメンタルヘルスについて復習して下さい (1時間)</p> <p>第13回 精神保健の問題 機能不全家族とは 子どもへの影響とは 【事前学習】 機能不全家族とは何かを予め調べておくこと (1時間) 【事後学習】 機能不全家族から子どもの影響について復習して下さい (1時間)</p> <p>第14回 親子関係をめぐるメンタルヘルスの諸問題 【事前学習】 母子関係をめぐるメンタルヘルスについて理解しておくこと (1時間) 【事後学習】 講義で学んだ母子関係の諸問題について復習して下さい (1時間)</p> <p>第15回 全般のまとめ (重要項目の復習) 【事前学習】 これまでの講義で学んだ重要なキーワードなど予習しておくこと (1時間) 【事後学習】 講義で学んだライフサイクルについて復習して下さい (1時間)</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>精神科医療の実際と精神保健の現状を理解し、ライフサイクルやライフステージにおける精神保健の問題や疾患についてこころの病を捉える。家族・学校・職場・教育現場・地域における精神保健の諸問題を具体的に取り上げる。また、治療や援助に必要な知識や理解を深めるために資料・DVDを教材として使用する。また、当事者の方の話を聴くこともあります。スクールソーシャルワーカー・精神保健福祉士国家試験の必須科目となるため、国家試験のキーワードを踏まえ、知識のみではなく実践現場での支援の方法も身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力と知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：精神保健福祉士シリーズ「精神保健の課題と支援」第2版 ISBN：9784335611148 出版社：弘文堂 著者名：松久保章、坂野憲司 価格（税抜）：2,700円</p>
<p>参考文献</p>	<p>授業において適宜紹介する予定。</p>

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	筆記試験にて評価する。国家試験に順ずる形式で25問を出題し、100点換算で評価とする。また、最終授業においてまとめを実施し出題範囲について解説する。
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間またはオフィスアワーにて対応する。研究室は104。
履修条件	【必須要件】精神保健福祉士受験資格取得には重要な科目となっており、1年次に修得しておくこと。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	積極的な授業の参加をお願いします。出席カードがリアクションペーパーとなっているので、質問や感想を記載して下さい。質問等は授業の始めに復習をかねて再度解説をいたします。これまで20年間精神科病院やクリニックでのソーシャルワーク実践と保健所等でのアディクション家族教室でのグループワークを踏まえ授業を行います。
準備学習について	毎回の授業の最後において重要なキーワードについて予習課題の提出を求めます。教科書の該当箇所や配布資料、レジュメの内容について、1時間半以上の予習復習を行ったうえで講義に臨んでください。

講義科目名称： 精神保健福祉相談援助の基盤 A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 鵜 領太郎			

テーマ	精神保健福祉の相談援助について全般的（概論）に学ぶ。
授業計画	第1回 ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士① (P 1～P 7) ソーシャルワーカーと精神保健福祉士 (小レポート指示、本授業を受ける思い)
	第2回 ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士② (P 7～P 19) 我が国の精神保健福祉施策 国家資格としての精神保健福祉士 (PSWの昭和と平成の違いを紹介)
	第3回 現代社会と精神保健福祉士 (P 19～P 32) 現代社会の特徴と精神保健福祉の課題 精神保健福祉士の活動領域の拡大 現代社会とソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士
	第4回 ソーシャルワークの定義と構成要素① (P 35～P 43) ソーシャルワークの定義 ソーシャルワークとは何か 我が国の主要な定義、国際的な定義 (小テスト予告)
	第5回 ソーシャルワークの定義と構成要素② (P 43～P 61) ソーシャルワークの成立過程 歴史、COS、セツツルメント運動 ソーシャルワークの構成要素(価値・知識・技術) (小テスト実施)
	第6回 ソーシャルワークの理念① (P 61～P 65) ソーシャルワークの理念(1) 人権擁護、社会正義、利用者主体、尊厳の保持 (グループ討議：ソーシャルワークで大事にすべきこと)
	第7回 ソーシャルワークの理念② (P 67～P 75) ソーシャルワークの理念(2) 権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション
	第8回 ソーシャルワークの理論と展開過程① (P 77～P 80) ソーシャルワークの歴史 ケースワークの体系化、ケースワーク論争と再統合、新しい展開 (グループ討議：診断主義か？機能主義か？)
	第9回 ソーシャルワークの理論と展開過程② (P 80～P 95) ソーシャルワークの実践モデル 理論と実践、理論と実践の乖離

	<p>主要な実践モデル（生態学的アプローチ、システム論、エンパワメント他） （小テスト予告）</p> <p>第10回 ソーシャルワークの理論と展開過程③（P95～P107） 3方法の統合とジェネラリストソーシャルワーク 3方法の統合化、ジェネラリストソーシャルワーク 地域を基盤とした生活支援</p> <p>第11回 協同作業としてのソーシャルワークの展開①（P108～P115） ソーシャルワークの展開 インテーク、契約、アセスメント、支援計画、支援（介入）、 モニタリング、終結 （グループ作業：想定事例による展開）</p> <p>第12回 協同作業としてのソーシャルワークの展開②（P115～P118） ソーシャルワークの領域 3領域（マイクロ・メゾ・マクロ） 個別支援の在り方 （1）ミニ体験学習：ロールプレイ（面談場面）</p> <p>第13回 協同作業としてのソーシャルワークの展開③（P118～P121） グループを対象とした支援 グループワークのプログラム プロセス （2）ミニ体験学習：グループ活動体験</p> <p>第14回 協同作業としてのソーシャルワークの展開④（P122～P127） 地域を対象とした支援 地域活動の展開、調査活動、広報・情報 地域でのコンフリクト（施設整備の地域の反対運動について紹介） （3）ミニ体験学習：模擬会議；コンフリクトへの対応</p> <p>第15回 全体のまとめ 本授業（A） まとめ 質疑応答 （グループ討議：本授業で学んだこと） 試験についての説明</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】 ソーシャルワークの定義、理念、方法、体系、歴史、精神保健福祉士の役割等を中心に、ソーシャルワーク全般と精神保健福祉との関連性についての学習を、講義及びグループワーク等アクティブラーニングを用いて実施する。（基礎編）</p> <p>【授業の到達目標】 本授業は、精神保健福祉相談援助の概論であり、次の各論・演習等を学ぶに必要な知識の習得。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力を及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー3 『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）第6版』 ISBN978-4-89269-906-1 出版社：へるす出版 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 価格（税込）3,132円</p>

参考文献	授業中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>学期末筆記試験(40%) 小テスト及びレポート(40%) 授業への積極性(20%)</p> <p>試験範囲については最終授業において説明</p> <p>【フィードバック方法】</p> <p>授業における質疑応答及び小テスト・レポートにコメント等にて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後及びオフィスアワー等(研究室 研究棟 105号室)
履修条件	【希望的条件】精神保健福祉士を目指す学生は『精神保健の課題と支援 A・B』を単位取得済であること。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴 講 生 【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>精神保健福祉士国家試験の指定科目であり必須。</p> <p>精神保健福祉士国家試験を受験しなくとも精神保健福祉に関心ある学生は歓迎。</p> <p>精神保健福祉業務(医療機関、地域活動支援センター、相談支援事業所において相談援助業務)に従事してきたことから精神保健福祉の実情についても紹介する。</p> <p>授業の内容に応じて、実践者や当事者をゲストスピーカーを招くことがある。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】毎回授業内で予習について指示する。(1時間程度)</p> <p>【事後学習】毎回授業で配布する資料の確認を指示する。(1時間程度) 小テスト及びレポートについても予告する。</p>

講義科目名称： 国際統計分類B			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 河村 保孝			

テーマ	疾病の分類方法を学習し、コーディング技術を習得する
授業計画	<p>第1回 国際統計分類の基本 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類について基本構成を解説します。</p> <p>第2回 第1章 感染症及び寄生虫症、第2章 新生物 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第3回 第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第4回 第5章 精神及び行動の障害、第6章 神経系の疾患 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第5回 第7章 眼及び付属器の疾患、第8章 耳及び乳様突起の疾患 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第6回 第9章 循環器系の疾患、第10章 呼吸器系の疾患 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第7回 第11章 消化器系の疾患、第12章 皮膚及び皮下組織の疾患 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第8回 第1章から第12章までのまとめ 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第9回 第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患、第14章 腎尿路生殖器系の疾患 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第10回 第15章 妊娠、分娩及び産じょく<褥>、第16章 周産期に発生した病態 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第11回 第17章 先天奇形、変形及び染色体異常、第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p>

	<p>第 12 回 第 19 章 損傷、中毒及びその他の外因の影響、第 20 章 傷病及び死亡の外因 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第 13 回 第 21 章 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第 14 回 原死因コーディング 私、河村保孝が病院職員としての実務で経験した国際統計分類における原死因コーディングについて例を取り上げ解説します。</p> <p>第 15 回 第 13 章から第 21 章までのまとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】 人体構造（解剖生理）、医学管理等で学習した知識を生かし、国際統計分類 A の学習と関連づけながら、ICD-10 の各章に沿った疾病分類体系を学習し、その特徴を踏まえて統計として正しい分類ができるよう理解を深める。また、退院時要約や死亡診断書等を用いて診療記録の記載内容を把握し主傷病名等の診断名及び原死因の統計上必要な分類コードを正確に選択できる知識を習得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>診療情報管理士テキスト 『診療情報管理Ⅳ 専門 8 章～12 章 2017』 『診療情報管理士教育問題集 専門 8 章～12 章 2017』 『疾病, 傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2013 年版準拠) 内容例示表』 『疾病, 傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2013 年版準拠) 索引表』</p>
参考文献	-
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>期末試験 (40%)、確認試験 (30%)、課題提出 (30%) で評価する。 試験や課題に関するフィードバックは学内制度 (成績評価問い合わせ制度) を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了時に受け付けます。
履修条件	-
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴 講 生 【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>1. 診療情報管理士受験資格科目ですので、原則として欠席は認めません。 2. やむなく欠席する場合は、教員あるいは友人に欠席した授業の内容を確認し、自習してから次の授業に臨んでください。</p> <p>平成 13 年より焼津市立総合病院診療情報管理課に配属となり診療情報管理業務に従事</p>
準備学習について	<p>受講前に、授業計画に基づきテキストを読み内容の把握につとめてください (1 時間)。また、毎回、授業で振り返りの資料を配布します。それをもとに授業時間外で 2 時間程度復習を行うようにしてください。</p>

講義科目名称： 人間関係とコミュニケーション			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 谷 功			

テーマ	介護福祉士に必要とされるコミュニケーションの基本を学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・個々の人の認知世界</p> <p>第2回 人生というドラマの主人公</p> <p>第3回 ストレスを考える</p> <p>第4回 援助対象者のとらえ方</p> <p>第5回 人間関係の形成とさまざまな広がり</p> <p>第6回 発達と人間関係</p> <p>第7回 エコロジカルな視点からみた人間関係</p> <p>第8回 集団力動からみた人間関係 ～グループワークからの学び～</p> <p>第9回 援助者支援と対人援助</p> <p>第10回 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎</p> <p>第11回 コミュニケーションの目的と方法</p> <p>第12回 コミュニケーションを促す環境</p> <p>第13回 コミュニケーション技法を知る</p> <p>第14回 各種コミュニケーション技法と実際 特別養護老人ホーム、デイサービスを中心とした居宅サービスの現場における、利用者、家族、他職種とのコミュニケーションの実際の場面を事例として取り上げます。</p> <p>第15回 コミュニケーション技法を活かす</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 より専門化、高度化した介護実践を行ううえで必要となる人間の理解や、他者への情報伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力を養う。グループワーク等、アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキルを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 ISBN：978-4-8058-5761-8 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>試験またはレポート：授業での積極性＝80：20 試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。

履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場における利用者、家族、他職種とのコミュニケーションがより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	テキスト本「最新・介護福祉士養成講座1人間の理解」に目を通しておくこと。 【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。（1時間） 【事後学習】毎回の授業で資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください。（1時間）

講義科目名称： 障害の理解A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 木下 寿恵			

テーマ	障害のある人の生活を理解し、介護の視点を習得する
授業計画	第1回 障害の基礎的理解 ① (障害の概念、障害の法的定義)
	第2回 障害の基礎的理解 ② (障害者福祉の基本理念)
	第3回 視覚障害を持っている人たちの生活 ① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第4回 視覚障害を持っている人たちの生活 ② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第5回 聴覚・言語障害を持っている人たちの生活 ① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第6回 聴覚・言語障害を持っている人たちの生活 ② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第7回 肢体不自由(運動機能障がい)を持っている人たちの生活 ① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第8回 肢体不自由(運動機能障がい)を持っている人たちの生活 ② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第9回 肢体不自由者にとっての補装具
	第10回 知的障害を持っている人たちの生活 ① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第11回 知的障害を持っている人たちの生活 ② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します

	<p>第12回 精神障がいを持っている人たちの生活 ① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第13回 精神障がいを持っている人たちの生活 ② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第14回 内部障がいを持っている人たちの生活 ① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第15回 内部障がいを持っている人たちの生活 ② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】障がいのある人たちの心理や身体状況に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいのある人たちが経験している事柄を理解し、家族等周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】障がいのある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得することができる。障がいのある人の地域での生活を理解し、家族や地域周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」及び「学士力」の構成要素の一つである「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」を身につけることができる</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 ISBN：978-4-8058-5774-8 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	<p>『最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版 *1年次に購入したもの それぞれの障がいと当事者に関する文献などは、講義内で適宜紹介する</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末試験：レポート等提出物=80：20 ・学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任)として6年6ヵ月間介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています
準備学習について	<p>【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(1時間)</p> <p>【事後学習】授業時のテキスト該当ページを読み、復習しておくこと(1時間)</p>

講義科目名称： 障害の理解B			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 鈴木 政史			

テーマ	障害がある人の生活を理解し、支援方法を学ぶ。
授業計画	第1回 高次脳機能障害を持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) pp. 184-188
	第2回 高次脳機能障害を持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) pp. 188-195
	第3回 発達障害を持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) pp. 197-202 自閉症スペクトラムについて実務経験に基づいて説明します。
	第4回 発達障害を持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) pp. 203-209
	第5回 重症心身障害を持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) pp. 148-153
	第6回 重症心身障害を持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) pp. 153-156
	第7回 難病のある人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) pp. 210-215
	第8回 難病のある人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) pp. 215-219
	第9回 障害のある人に対する介護の基本的視点① (障害による心身への影響や心理的变化の理解) 配布資料
	第10回 障害のある人に対する介護の基本的視点② (ライフステージや障害の特性を踏まえた機能の変化が生活に及ぼす影響の理解、QOLを高める支援) 社会資源の利用と開発、到達度評価について 配布資料
	第11回 障害のある人の家族の実際と課題の理解、家族への支援とは pp. 250-261
	第12回 障害のある人の家族への支援、家族の介護力の評価と介護負担の軽減 pp. 262-274
	第13回 福祉・保健・医療・教育・労働の多職種連携と協働による支援のあり方、チームアプローチ pp. 238-246
	第14回 福祉・保健・医療・教育・労働の多職種連携と協働による支援の課題、チームアプローチにおける支援者の役割 配布資料
	第15回 障害のある人の生活を支える地域でのサポート体制 pp. 224-237

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】 福祉教育では車椅子体験や視覚障害体験などの疑似体験を通して障害の理解を深める取り組みを行っている。一方で障害があることの大変さは理解できても、障害がある人の気持ちまで理解することは難しい。本講義では、演習やグループワーク、疑似体験などを通して可能な限り障害を把握し、障害児者支援の視点、支援方法などを学びます。また、障害のある人たちの心理や身体状況に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人たちが経験している事柄を理解し、家族等周囲の環境にも配慮した介護の視点を学びます。</p> <p>【授業の到達目標】 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得すること、障害のある人の地域での生活を理解し、家族や地域周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得すること、様々な障害について理解を深め、支援の基本的な視点や他職種との連携、地域支援などの知識・技術を身につけることを到達目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができます。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 ISBN：978-4-8058-5774-8 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税抜）：2,200 円</p>
<p>参考文献</p>	<p>配布資料等にて適宜紹介します。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】 受講態度（ワークシートの記載内容に対する評価）：50%、学期末に実施する到達度評価：50%を評価の素材として総合的に評価します。 【フィードバック方法】 フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を利用してください。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>講義終了後やオフィスアワーを活用してください。</p>
<p>履修条件</p>	<p>特にありません。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。 受講にあたって調整が必要な場合は事前に協議し、もっとも適切な方法を個別に検討します。必ず受講開始前に相談してください。なお、講義の進捗状況、テキストの改定に応じて授業計画が変更になる場合があります。 社会福祉協議会や社会福祉法人で障害者支援に6年間携わっていました。講義では障害者支援の実際について伝えることができればよいと考えています。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>【事前学習】 事前にテキストや配布資料の該当箇所を読み、わからない用語や制度を調べてください（1時間以上）。 【事後学習】 原則として毎回の授業でワークシートに取り組みます。授業時間外で振り返り、障害に関する話題（ニュースや記事）、講義やワークシートで取り扱った障害、支援方法などを調べてください（1時間以上）。</p>

講義科目名称： 乳児保育 I			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 村松 幹子			

テーマ	保育士として必要な乳児保育の基礎知識を理解し、習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方について 保育所における乳児保育の視聴（ビデオ） グループワーク（気づき）</p> <p>第2回 乳児保育の意義・目的・歴史の変遷 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第3回 乳児保育の現状と課題 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第4回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈1〉社会的発達 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第5回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈2〉身体的発達 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第6回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈3〉精神的発達 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第7回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈4〉自己の形成 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第8回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈5〉集団の中の育ち 【事前学習】保育所保育指針第2章1項、2項を一読しておく（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第9回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈1〉保育者のかかわりの基本 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p>

	<p>【事後学習】 わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく (1 時間)</p> <p>第 10 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈2〉 保育所と保護者との連携 【事前学習】 テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと (1 時間) 【事後学習】 わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく (1 時間)</p> <p>第 11 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈3〉 3 歳未満児の生活と環境 【事前学習】 テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと (1 時間) 【事後学習】 わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく (1 時間)</p> <p>第 12 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈4〉 3 歳未満児の遊びと環境 【事前学習】 テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと (1 時間) 【事後学習】 わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく (1 時間)</p> <p>第 13 回 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈5〉 2 歳から 3 歳への移行期の保育 【事前学習】 テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと (1 時間) 【事後学習】 わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく (1 時間)</p> <p>第 14 回 乳児保育の計画・記録・評価の意味 【事前学習】 テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと (1 時間) 【事後学習】 日案を立ててみよう (1 時間) わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく</p> <p>第 15 回 連携と協働 職員間・関係機関・保護者 【事前学習】 テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと (1 時間) 【事後学習】 わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく (1 時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 乳児保育の意義と目的、3 歳未満児の発達の理解 毎回の授業の冒頭においてわらべうたを 1 曲ずつ、覚えていき、最後の授業にプレゼンテーションを行う。</p> <p>【到達目標】 乳児保育に必要な基礎知識を身に付け、実践へとつなげる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：乳児保育の理論と実践 I S B N：978-4-332-70196-5 出版社：光生館 著者名：阿部和子・大方美香 編著 価格（税別）：本体 1900 円</p>
参考文献	<p>保育所保育指針 乳児保育（エイデル研究所）</p>

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>授業への意欲・グループワークへの参加態度 (40%) わらべ歌 (30%)</p> <p>まとめテスト (30%) などを総合して評価する</p> <p>【フィードバック方法】</p> <p>学内制度 (成績評価問い合わせ制度) を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	授業終了時・随時
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】聴 講 生 【可】
メッセージ	保育園園長として20年余り、授業の中で経験と実践に基づく具体的な見識を伝えていこうと思います。毎回の授業で保育の場で実際に活用しているわらべうた等を学びます。また第9回以降の授業においては事例やエピソードをふんだんに活用して進めていきます。
準備学習について	<p>【事前学習】授業内で提示する。次回授業までに行っておくこと</p> <p>【事後学習】毎回の授業でわらべうたを学ぶ。楽譜等を配布するので必ず、ファイリングし、復習しておく</p>

講義科目名称： 乳児保育Ⅱ			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 村松 幹子			

テーマ	乳児保育の基礎知識に基づき、実践について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方 グループ作り、授業内容について、乳児保育Ⅰの振り返り 【事前学習】乳児保育Ⅰの振り返りしておく（1時間） 【事後学習】写真絵本作成の計画立案（1時間）</p>
	<p>第2回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈1〉子どもの主体性を尊重した関わり ビデオの視聴とグループワーク 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第3回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈2〉共感的・受容的・応答的な関わり：0歳児 ビデオの視聴とグループワーク 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第4回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈3〉共感的・受容的・応答的な関わり：1歳児 ビデオの視聴とグループワーク 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第5回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈4〉共感的・受容的・応答的な関わり：2歳児 エピソードを読んでグループワーク 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく</p>
	<p>第6回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 〈1〉1日の流れ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第7回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 〈2〉環境の構成 保育室をどう、整えるか 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第8回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 〈3〉生活と援助の実際 具体的な対応の実際 授乳・食事・排泄・睡眠・着脱等 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第9回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 〈4〉遊びと援助の実際 玩具の体験 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第10回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 〈5〉 子ども同士の関わりと援助の実際</p>

	<p>エピソードから考える・・・グループワーク</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】これまでに保育園見学を済ませ、レポートにまとめる（1時間）</p> <p>第11回 乳児保育における配慮の実際 健康・安全・情緒の安定</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p> <p>第12回 乳児保育における配慮の実際 環境の変化・集団生活</p> <p>【事前学習】事前にテキスト該当ページを一読し、把握しておく（1時間）</p> <p>【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p> <p>第13回 乳児保育における計画 〈1〉長期的な指導計画と短期的な指導計画</p> <p>【事前学習】事前にテキスト該当ページを一読し、把握しておく（1時間）</p> <p>【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p> <p>第14回 乳児保育における計画 〈2〉個別計画と記録・評価</p> <p>連絡ノートを書いてみよう</p> <p>【事前学習】事前にテキスト該当ページを一読し、把握しておく（1時間）</p> <p>【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく</p> <p>第15回 乳児保育の実践 まとめ 保育の一場面を実践してみよう</p> <p>【事前学習】これまでの振り返りと内容の確認</p> <p>【事後学習】実践後の振り返り 記録・評価</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】乳児保育のための具体的な実践方法の理解 毎回の授業において絵本、玩具の紹介</p> <p>【到達目標】乳児保育における多面的な配慮の実際を身に付ける</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らがたてた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名： 乳児保育の理論と実践 ISBN:978-4-332-70196-5 出版社： 光生館 著者名： 阿部和子・大方美香 価格（税別）： 1900 円</p>
参考文献	<p>保育所保育指針 保育とおもちゃ（エイデル研究所）</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>授業への意欲・グループワークへの参加態度（20%） 保育園見学（20%） 写真絵本作成（20%） レポート等（40%）</p> <p>【フィードバック方法】</p> <p>学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	<p>授業終了時・随時</p>
履修条件	<p>特になし</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>
メッセージ	<p>保育の現場において保育士として、園長として多くの乳児たちとかかわってきました。そこで得た見識や具体的な支援の方法などを伝えていきたいと思えます。 全ての授業において素材として勤務する自園の取り組みを活用して学んでいきます。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】授業内で提示する。次回授業までに行っておくこと</p> <p>【事後学習】毎回の授業で絵本を読み聞かせる。その絵本をリスト化する。 また、玩具の紹介もするので同様にリスト化しておく</p>

講義科目名称： 国語科指導法			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 富山 敦史			

テーマ	小学校国語科の授業の目標・内容・方法・指導のあり方・学習者の理解等について、体験的な学びを通して基礎的な実践力を養う。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：「国語とは何か」、「国語を学ぶ」とはどういうことか。</p> <p>第2回 学習指導要領国語科の構成を知り、目標、内容（指導事項）、言語活動例を理解する</p> <p>第3回 学習指導要領国語科の目標、内容、言語活動を9か年の系統性の視点で把握する</p> <p>第4回 読むことの指導①（説明文教材：内容理解と表現・構造の理解）</p> <p>第5回 読むことの指導② （説明文教材：教材研究の視点と児童理解、発問づくりと模擬授業）</p> <p>第6回 読むことの指導③（文学教材：文学教材における指導事項）</p> <p>第7回 読むことの指導④ （文学教材：教材研究の視点と児童理解、発問づくりと模擬授業）</p> <p>第8回 書くことの指導① （文章作成の指導過程・文種に応じた文章構成・書くことの技術 等）</p> <p>第9回 書くことの指導②（論理的な文章の基本構造・実際の文章作成・推敲の方法 等）</p> <p>第10回 話すこと・聞くことの指導①（スピーチ・話し合い・プレゼンテーションの指導）</p> <p>第11回 話すこと・聞くことの指導② （話すこと・聞くことの指導過程と話し合い・対話の体験）</p> <p>第12回 伝統的な言語文化と国語の特質について（古典指導・漢字・書写実技指導）</p> <p>第13回 学習指導案の作成 （指導案の形式・項目・単元構成・本時展開・板書計画、評価等）</p> <p>第14回 国語科におけるICTの活用及び授業展開の工夫</p> <p>第15回 小学校国語科におけるアクティブラーニングと授業改善</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 小学校学習指導要領ならびに小学校学習指導要領解説（国語科編）に示された「国語科の目標及び内容」「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」を通じて、小学校国語科の本質・目標・指導内容とその構造・小中9年間の系統性について理解するとともに、具体的な教科書教材を使って教材研究の在り方や学習指導案作成の方法およびICTの活用等を学び、実際に討論や模擬授業等を行うことにより実践力を身につける。また、国語科教育における「主体的・対話的で深い学び」の在り方を、アクティブ・ラーニングを取り入れた対話的協働的の在り方を検討するとともに、よりよく生きるための「資質・能力を育成する国語科指導法」も追究していく。</p> <p>【到達目標】 下記「メッセージ」欄参照</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 下記「メッセージ」欄参照</p>

テキスト	<p>テキスト名：『小学校学習指導要領』（平成29年告示）文部科学省 東洋館出版社 ISBN：978-4491034607 出版社：東洋館出版社 著者名：文部科学省 価格（税抜）：201円</p> <p>テキスト名：『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成29年告示）文部科学省 東洋館出版社 ISBN：978-4491034621 出版社：東洋館出版社 著者名：文部科学省 価格（税抜）：162円</p>
参考文献	『新版 小学校国語科教育法』 野地潤家・湊吉正 編 おうふう
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>①毎時間の受講記録（ミニレポート）（30%） ②確認ミニテスト（学習指導要領の確認・論述）（20%） ③教材文・ワーク・テストの作成（25%） ④学習指導案の作成（25%） 計100%</p> <p>【フィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを行った次の回の授業内で総評を口頭で伝えます。 ・小レポートを回収した次の回の授業内でコメントをつけ返却します。
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟 1階）で受け付けます。 ・または、tomiyama-atushi@sz.tokoha-u.ac.jp へどうぞ。
履修条件	・特に設けません。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>
メッセージ	<p>【到達目標】</p> <p>(1)小学校学習指導要領 国語科の目標を説明することができる。 (2)小学校学習指導要領 国語科の各学年の目標及び内容を読み取ることができる。 (3)基本的な学習指導案の書き方を身につける。 (4)単元構想、評価規準、指導と評価などの指導計画を指導案に表現することができる。 (5)国語科教材の内容を知り、教材研究の方法を身につけることができる。 (6)国語科における充実した言語活動の在り方や系統性を考え学習計画に位置づけることができる。 (7)国語科教育における資質・能力の育成とその評価について考えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、②主体的に学習する力 ③実践的に課題を発見する力 ツ④課題を解決へと導く力 及び「学士力」の構成要素の一つである、②人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 ③コミュニケーション・スキル⑥論理的思考力 ⑨チームワーク、リーダーシップ ⑬これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p> <p>・単に知識を理解、技能を修得するだけでなく、なぜそうなのかという本質的な「問い」をもつことを大切に、学修を深めてください。</p> <p>【メッセージ】</p> <p>・約30年の義務教育学校教員経験を踏まえた、教育活動の本質的なお話ができればと考えています。（幼・小・中・高・特支の教員免許を取得しています）</p>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業内で予習内容を提示しますので、次回授業まで予習をしておいてください（1.5時間） ・毎回授業で確認（小テスト or 小レポート）を実施します。授業時間外で振り返りを行うようにしてください（1時間）。 ・授業内で（何かしらの形で※発表内容は事前提示）発表をしてもらいます。事前に復習をしておいてください（1.5時間）

講義科目名称： 生活科指導法			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 木村 光男			

テーマ	小学校学習指導要領解説生活編に示された教科の目標、育成を目指す資質・能力を理解し、これまでに蓄積した生活科の特質・学習指導理論を踏まえ、単元構想・授業計画及び模擬授業を行う方法を身に付け、学習評価の考え方を理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・学習指導要領の目標を理解する</p> <p>第2回 生活科指導法における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進について理解する</p> <p>第3回 生活科の内容理解・教材研究（1）「学校と生活」</p> <p>第4回 生活科の内容理解・教材研究（2）「家族単元」</p> <p>第5回 生活科の内容理解・教材研究（3）「飼育・栽培単元」</p> <p>第6回 生活科の内容理解・教材研究（4）「地域と生活」</p> <p>第7回 生活科の内容理解・教材研究（5）「生活や出来事の交流」</p> <p>第8回 生活科学習評価の考え方</p> <p>第9回 生活科授業設計（年間指導計画）</p> <p>第10回 生活科授業設計（子どもの体験を充実させる工夫）</p> <p>第11回 生活科の特質に応じた情報機器及び教材の効果的活用法を理解する</p> <p>第12回 生活科単元構想及び授業設計案の協同的探究</p> <p>第13回 生活科の評価の観点と方法を明確にした学習指導案の作成</p> <p>第14回 模擬授業の実施とその振り返りについての協議</p> <p>第15回 模擬授業の実践と工夫・改善についての協議</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 本科目は、生活科の授業設計を行う方法を身に付ける。また、生活科の主な教材（学習材）内容と児童が身に付ける資質・能力の調和的な実現を目指して展開する。</p> <p>【到達目標】 1. 生活科の指導法についてアウトラインを掴み、授業設計に生かすことができる。 2. 生活科の単元構想及び授業指導案を作成できるようになる。 3. 生活科の教材研究の方法を理解し、児童の興味関心に合った授業設計を考案することができる。 4. 児童の活動を見取り、学びと変容を具体的に評価する観点を習得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、（主体的に学習する力）及び「学士力」の構成要素の一つである、（これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力）を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：『小学校学習指導要領』 文部科学省 ISBN: 9784491034607 出版社：文部科学省 著者名：東洋館出版 価格（税抜）：201 円</p> <p>テキスト名：『小学校学習指導要領解説 生活編』 文部科学省 ISBN:9784491034645 出版社：文部科学省 著者名：東洋館出版 価格（税抜）：134 円</p> <p>テキスト名：『みんなでまなぶ しょうがっこう せいかつ 上、下』（文部科学省検定本） また、コードは、ISBN:9784762556135（上巻）、ISBN:9784762556142（下巻） 出版社：学校図書 著者名：山口令司他 価格（税抜）：上下巻 1,829 円</p>
参考文献	<p>子どもが蘇る問題解決学習の授業原理—学習指導と生活指導を合体する指導法の魅力 藤井千春 明治図書</p> <p>はじめに子どもありき—教育実践の基本 平野朝久 学芸出版</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 定期試験：50% 授業後の振り返りレポート、単元計画案及び学習指導案に関する課題提出物：40% 協同的活動における参加態度：10% 【フィードバック方法】 振り返りレポート内容に対するフィードバックは、次の授業の冒頭で丁寧に実施する。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室(研究室棟1階)で受け付ける。
履修条件	第1回目の授業で人数と座席を決めるため、第1回目の授業に出席していない者の履修は認めない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	教員として約30年間従事したことがあります。授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れるようにします。
準備学習について	毎回授業で復習用の資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください（1時間）。また、第10回以降は、授業内で発表をしてもらいます。事前に準備をしておいてください（2時間）

講義科目名称： 地域子育て支援論			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 池谷 愛子			

テーマ	地域子育て支援についての理念や活動内容について理解する
授業計画	第1回 子育て支援の必要性と制度 1. 子育て支援とは 2. 子育て支援が求められる背景
	第2回 子育てをめぐる諸課題 1. 共働き世代の増加と子育て現状 2. 子育てに対する負担と不安
	第3回 子ども・子育て支援の制度、施策のあゆみ
	第4回 子ども・子育て支援新制度とは 1. 子ども・子育て支援新制度の根拠法 2. 子ども・子育て支援の概要
	第5回 地域における子育て支援のしくみ
	第6回 保育所が行う子育て支援 1. 保育所の役割と課題 2. 地域の子育て家庭への支援と地域との連携
	第7回 幼稚園が行う子育て支援 1. 幼稚園の役割と課題 2. 地域の子育て家庭への支援と地域との連携
	第8回 認定こども園が行う子育て支援 1. 認定こども園の役割と課題 2. 地域の子育て家庭への支援と地域との連携
	第9回 養護施設が行う子育て支援 1. 養護施設の役割と課題 2. 地域の子育て家庭への支援と地域との連携
	第10回 地域で展開される子育て支援 1. 親子の居場所「常設のひろば」という発想
	第11回 地域で展開される子育て支援 1. 地域子育て支援拠点事業の変遷 2. 地域子育て支援拠点どうしの連携
	第12回 地域で展開される子育て支援 1. 放課後子ども総合プラン
	第13回 地域で展開される多様な支援の場・人・活動 1. ファミリーサポートセンター事業について 2. ファミリーサポートセンター事業のしくみ・メリット・成果と課題
	第14回 地域で展開される多様な支援の場・人・活動 1. 子育てサークル・サロンについて

	<p style="text-align: center;">活動内容と意義・課題</p> <p style="text-align: center;">2. 児童館における子育て支援の活動</p> <p>第 15 回 まとめ</p> <p style="text-align: center;">地域子育て支援の展開と課題</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【概要】 核家族化やコミュニティの希薄化などにより、子育てが孤立化し、育児の不安や負担感が増す中で、安心して楽しく子育てができる社会の構築が求められている。</p> <p>【到達目標】 地域子育て支援についての理念を理解し、親子が気軽に集い相互交流や子育ての不安、悩みを相談できる場を提供する具体的な取り組みを事例を通して学び、その意義や課題について理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、(実践的に課題を発見する力) 及び「学士力」の構成要素の一つである、(コミュニケーション・スキル) を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「子育て支援」 出版社：ミネルヴァ書房 価格：2,200 円＋消費税</p>
参考文献	授業の中で適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>テスト：80%、レポート：10%、授業態度：10%</p> <p>フィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。 小レポートを回収した次の授業で総評を口頭で伝える。</p>
質問・相談の受付方法	質問は授業の途中でも受け付けます。相談は授業終了後に受け付けます。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】但し事前相談を要す 聴講生【可】 //</p>
メッセージ	保育所で 38 年間、子育て支援センターで 2 年間勤務した実践例を、写真や、DVD をとおして学習することで、地域子育て支援について、より理解を深め、実践力を身に付けてほしい。
準備学習について	次週の授業内容を知らせるので、事前に 30 分ほど教科書に目を通してきてほしい。

講義科目名称： 発達支援論			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 上野 永子			

テーマ	発達障がいに関する基礎知識及び、インクルーシブな社会の視点からその支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 発達障がいとは</p> <p>第3回 生まれつきの発達特性①身体感覚</p> <p>第4回 生まれつきの発達特性②認知</p> <p>第5回 生まれつきの発達特性③コミュニケーション</p> <p>第6回 誤学習としての不適切な行動</p> <p>第7回 「発達的气になる子ども」の自己観</p> <p>第8回 「発達的气になる子ども」の支援①見通し</p> <p>第9回 「発達的气になる子ども」の支援②手段としての言葉</p> <p>第10回 「発達的气になる子ども」の支援③自尊心とセルフコントロール</p> <p>第11回 「発達的气になる子ども」の保護者支援①保護者支援としての子ども支援</p> <p>第12回 「発達的气になる子ども」の保護者支援②子ども支援としての保護者支援</p> <p>第13回 「発達的气になる子ども」の保護者支援③保育者の役割</p> <p>第14回 インクルーシブな社会とは</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】本講義では、発達障がいを持つ子どもの特性を理解した上で、その支援のあり方について学びます。また、子どものもつ「障がい」に起因するとされがちな子どもの問題行動には、保育者の対応に起因するものがあることを知り、インクルーシブな社会に向けて、何が必要なかを考えることを目的とします。</p> <p>【到達目標】ケアワーカーとして必要な、インクルーシブな社会を実現するための基礎知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「気になる子の本当の発達支援 新版」</p> <p>ISBN：9784907537111 出版社：風鳴舎</p> <p>著者：市川奈緒子 価格（税抜）：1700円</p>
参考文献	特になし
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>講義中に課すレポート：30% 学期末のレポート：70%で評価します。</p> <p>フィードバックとして授業中に課したレポートについては、次の回の講義中にコメントをつけて返却します。</p> <p>期末レポートは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行います。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後の教室で、もしくは、オフィスアワーに個人研究室で、質問・相談に応じます。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	教育臨床の現場で臨床心理士として発達に課題のある子どもと養育者の支援を実践してきました。この授業を通して、みなさんの発達障がいについて、発想を転換してもらえればと思います。
準備学習について	授業終了後に、次回の予習内容を指示します。授業ごとに1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

講義科目名称： 家族心理学			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 上野 永子			

テーマ	心理学的観点から家族の様相について学ぶ
授業計画	第1回 家族とは 第2回 家族の文化的多様性 第3回 恋愛から結婚へ 第4回 夫婦間のコミュニケーション 第5回 中年期の夫婦関係 第6回 人間の子育て 第7回 育児不安 第8回 夫婦関係と子育て 第9回 父親の子育て 第10回 「だれが育てる」から「どう育てる」へ 第11回 親と子の関係 第12回 家族の臨床／病理①DV 第13回 家族の臨床と病理②親子関係の病理 第14回 家族のゆくえ 第15回 まとめ
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	【概要】家族心理学は、心理学の中でも比較的新しい学問です。本講義では、家族の現状について広い視野から概観し、それらの原因や背景を理解することを目的とします。また、家族が抱える問題を取り上げ、臨床心理学的アプローチについても学びます。 【到達目標】ケアワーカーとして、家族を支援する際の家族心理学に関する基礎知識を身につける。 【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。
テキスト	テキスト名：「よくわかる家族心理学」 ISBN-13: 978-4623055777 出版社：ミネルヴァ書房 著者：柏木恵子編著 価格（税抜）：2800
参考文献	講義中適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	講義中に課すレポート：30% 定期試験：70%で評価します。 フィードバックとして授業中課したレポートについては、次の回の授業内でコメントをつけて返却します。 また、期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行います。
質問・相談の受付方法	講義終了後もしくは、オフィスアワーにて受け付けます。
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	「家族」は時に厄介なものです。この講義を通して、みなさんが自分の「家族」について振り返り、自分か築きたい「家族」を考えるきっかけになればと思います。担当者が里親家庭支援経験を通して見えてきた「家族」についても、講義で取り上げていきたいと思っています。また、講義内で里親さんの里子養育体験について、お話をうかがう機会を設けたいと考えています。具体的には、講義開始後、日程含めて連絡調整します。
準備学習について	授業終了後に次回の予習内容を指示します。授業毎に、1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

講義科目名称： 児童福祉心理学			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 上野 永子			

テーマ	児童福祉現場における子どもの問題と臨床心理学的理解
授業計画	<p>第1回 自己理解として、自分自身の成育歴を振り返る</p> <p>第2回 子どもの発達（1）乳児期の問題と病理</p> <p>第3回 子どもの発達（2）幼児期の問題と病理</p> <p>第4回 子どもの発達（3）児童期の問題と病理</p> <p>第5回 子どもの発達（4）思春期の問題と病理</p> <p>第6回 児童福祉施設の概要とその機能</p> <p>第7回 児童虐待について</p> <p>第8回 DVについて</p> <p>第9回 非行について</p> <p>第10回 不登校について</p> <p>第11回 発達障がいについて</p> <p>第12回 トラウマのケアについて</p> <p>第13回 その他の子どもの心理的不適応について</p> <p>第14回 児童福祉における重要な視点</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】児童相談所等の児童福祉現場における子どもの問題について、臨床心理学の理論とそのアプローチについて学び、児童福祉現場において出会う、様々な子どもの問題（被虐待・DV・非行・不登校・発達障害など）に対する、臨床心理学的アプローチについて、子どもの発達課題と合わせて理解することを目標とします。</p> <p>【到達目標】ケアワーカーとして必要な、子どもの心理社会的問題についての知識を身につけます。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しません。適宜、プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>講義中に課すレポート(30%)と学期末の筆記試験(70%)で評価します。</p> <p>フィードバックとして授業中課したレポートについては、次の回の授業内でコメントをつけて返却します。</p> <p>また、期末試験に関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。</p>
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）にて、質問・相談に応じます。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	臨床心理士として、様々な事例に携わってきました。それらの経験を講義内でも話題にしたいと考えています。心理学の視点から、社会の様々な問題について一緒に考えましょう。
準備学習について	授業終了後に次回の予習内容を指示します。授業毎に、1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

講義科目名称： 親子関係支援演習			
開講期間： 後期	配当年： 4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 望月 梓			

テーマ	親子関係を支援するのに有効な心理技法を、保育の現場や日常生活等で活用できるよう実践的に学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 親子関係を支援する心理技法について</p> <p>第2回 自己/他者理解のワーク</p> <p>第3回 親子関係に活かすコミュニケーション・スキル① 「話す」「聴く」</p> <p>第4回 親子関係に活かすコミュニケーション・スキル② あたたかい言葉がけ、リフレーミング</p> <p>第5回 親子関係に活かすコミュニケーション・スキル③ アサーション ※第3-5回のコミュニケーション・スキルの講義では、実際に各種学校現場で行った授業や講演、実践活動などを通して経験した親や子どものコミュニケーションに関するエピソードを踏まえてお話しします。</p> <p>第6回 ストレスマネジメント① 「ストレス」を知る（ストレッサー、ストレス反応）</p> <p>第7回 ストレスマネジメント② ストレスに対する捉え方（認知的評価）</p> <p>第8回 ストレスマネジメント③ ストレスへの対処法（コーピング（基礎編））</p> <p>第9回 ストレスマネジメント④ ストレスへの対処法（コーピング（応用編）） セルフリラクセーション</p> <p>第10回 ストレスマネジメント⑤ 親子で取り組むペアリラクセーション ※第6-10回のストレスマネジメントの講義では、実際に各種学校現場で行った授業や講演、実践活動などを通して経験した親や子どものストレスに関するエピソードを踏まえてお話しします。</p> <p>第11回 応用行動分析（ABA）を活かした支援① 応用行動分析の基本、ABC フレーム</p> <p>第12回 応用行動分析（ABA）を活かした支援② 応用行動分析を用いたアセスメント（事例①）</p> <p>第13回 応用行動分析（ABA）を活かした支援③ 応用行動分析を用いたアプローチ方法（事例②）</p> <p>第14回 子どもへの理解を深めるペアレントトレーニング</p> <p>第15回 総括とふりかえり</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 本講義は、受講生が親子関係を支援するための各種技法をロールプレイなどの体験を通して学ぶ演習形式で行います。</p> <p>【到達目標】 親子の関係性を支援するための心理技法や心理教育の知識・技術を習得すると共に、受講生が今後支援者として自分自身を振り返ることができるような視点を持つことを目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力や課題を解決へと導く力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキルや自己管理能力、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが建てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができます。</p>

テキスト	指定しません。
参考文献	講義中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	講義後の感想レポートおよび学期末に提出するレポートで評価します。 毎回講義の最後に、出席確認を兼ねた感想レポートを提出して下さい。それらの総評については次回の講義内にて口頭で伝えます。期末レポートに関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。
質問・相談の受付方法	講義の最後に提出する感想レポートに記入して下さい。次回の講義内で回答します。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	講義の前半にロールプレイの説明等を行うことが多いため、開始30分を過ぎての参加はできません。遅刻をしないように注意してください。30分を過ぎた場合、出席確認用のレポート用紙を配布しません。なお、授業計画については学生の人数や理解度等を考慮しながら内容を柔軟に変更することもあります。 これまで心理職として学校臨床に携わってきました。講義ではそこで経験したエピソード等について触れることができればと思います。
準備学習について	直前の講義で取り上げた内容を自身の生活の中で実践する等しながら復習し(30分程度)、次回の講義に臨むようにして下さい。